

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

僕達はあらかじめ、原爆のことについて勉強してました。
僕はこれで、たいたいわがたつちでいました。しかし、この話を
聞いて、僕達は、何一つわがていないことに気付きました。
まー一番にびっくりしたのは情景です。

電柱も木造の家、生き物の姿さんない。

一面灰色、一生け人命話についていこうとがんばっていても、
想像するのがこわいのと、どのような様子なのが想像できな
いのとで、できませんでした。

もとびっくりしたのは川の状況です。ふらふらしてしまて

満はいたった水の量は、ほとんどなくなっていたと聞いて
原爆のおそろしさを知ってこわくなりました。

びっくりしたことはもう一つあります。

池田さんが言たもはや人間の姿ではながた、という言葉でも

ひふかはがれあち、全身真赤で、黒こげになて、生きているのが
死んでいるのがわがらなく、口をバクバクして何かをうたえようと
ている。さわるとぞとずるかんじ。

これが、このお話の中で一番心に残る言葉です。

このお話で、言葉では表でない複雑な気持ちになりました。

僕が大人になても、何もしなくていいわがら、原爆の被害を受

けたのは日本をけ。だから、原爆にはあてないけれど、何かできる

ことがあれば、やりたい。今は何をするべきかわがらなく、大人にな
るまで、見つかるとは。僕達のためにわざわざ話してくれて、本当にありがた

ございました。 6年 1組 名前 岩井馬介

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

原爆については図書館やスピーチでよく調べてきました。しかし、人の言葉でなく、体験話は本で見るよりももっと悲惨でした。皮がはがれ、肉が露出、灰色の世界、ものすごい死臭、灼熱など、僕たちには想像がつかないものは「カリ」です。とくに灼熱、これは実際に体験してみないと分かりません。いま「熱い」との区別ができません。「熱い」より熱いというのが分かりません。

また、消火用のおけに死体が入っているのも印象に残っています。このおけに入っていく人の気持ちはどうなものでしょうか。きっと、灼熱から逃げたい一心だったのでしょう。そのおけの水が人のこしまでしか入っていなかったのです。そして、川の水さえも一瞬にしてなくなったのです。ますます灼熱が分からなくなります。しかし、一ついえるのは、灼熱もまた、全てを奪うものの一つであるということです。

ウジの話も忘れられません。傷口からウジがわくというのはどんな思いをするのか、考えたくもありません。

池田さんの言った、「日本は唯一の被爆国です」という言葉がとても大切に思えました。なぜなら、日本が原爆の真の恐怖を伝えていける国だというメッセージがこめられているからです。東京で生きている自分には深い語はできないかもしれません。しかし、今回聞いたことを他人に伝え、それを忘れないことこそ、自分たちができる、一番のことだと思えます。今回、僕たちに話してくれたことで、ありがとうございました。

6年 / 組 名前 奥田 辰哉

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

私がお話を聞いて一番心に残った事は、

お話の最後、亡くしてしまわれた池田さんが言った

「きいすぎる」 この一言が心にしみわたりました。

私は長崎の原爆資料館に行きました。

そこには多くの資料がありました。思わず泣いてしまっ

た場面もありました。しかし私は今思い返して見て

本当の戦争のありさまであつたのかと思ひました。

本当の戦争のありさまをあらわすためには、資料ではなく

戦争にあつた人のお話を聞くことだと思ひました。

私は、本当の原爆は、資料ではあらわせません。

原爆は被害者にしかわかりません。しかし、原爆は、こわく

おそろしい物、二度とやっては行けないと言ふことは私にもでき

ます。

原爆は資料にあらわされないうちにおそろしい

ということがわかり、私たちにも、後世に伝える義務

があるのではないかと考へて

後世に伝え、人に心への助けとなつてほしいと

思ひます。そして、原爆は人を苦しめる物ではなく、

人をよるうばせる物、「核の平和利用」をしなければ

ならないと思ひました。お話は心にしみわたるもので、

本当にありがとうございました。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

池田さんのお話をうかがって、どうして被爆者が
ななめ前に手を出してあるしているのか？

原爆の投下地が、1.広島 2.こくら 3.長崎である
のはなぜか？ 落とされた原子爆弾の中心間
中心 周りの温度がどれくらいで、なぜ空中で
落とすのか？ という、原爆についての、とても

不思議なことが、今までよりも、よくわかるように
なりました。そしてまた、私自身でなぜ原爆を

日本の広島や長崎に投下するために大変な
戦略をたてたのか？ という問題を少し

考えるようになりまし。また、答えを出せ
てはいませんが、これから、考えていこうと

思っています。また、原爆のことではないのですが、
水素のゆう合のことを教えてくれたさい。太陽

が、絶え間なく燃えている理由も分かっ
てきました。池田さんのお話は私にとって、

なぜか、とけたことや、これから自分が考えていかな
いといけないことを教えてもらうきっかけになりまし。

ありがとうございました。これから原爆のことを考えて、
日本人として、どんなに小さな活動でも参加して、
一生懸命、世界に訴えていきたい、思います。

6年 / 組 名前 大塚莉沙

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

僕は池田さんのお話を聞いてまず思ったことはとにかく原爆は恐ろしいということです。広島に落とされた原爆は、一瞬にして十二万人の命をうばい、今後生きていく市民に、大きな影響を及ぼしてしまいました。実は僕と自分の弟は被爆三世で、弟は生まれつきある体の中のホルモンが出ない病気に、また被爆一世代の祖母は昨年近くに胃がんにかかっております。原爆の影響はうけてはいないとは思いますが、こうやって見ていきますと、自分はなんて健康でうまれてきたことが、一生は人命にこれからは生きなけねば」ととても感じることもあります。また、内国は今平和主義ですが、近く、北朝鮮が核ミサイルを飛ばしたりして、やはり、自国も軍備を持たなければいけないのかなと思うことがあります。でも、たいは、なんで「世界の国々が」単々争は何の利益もたささないというのかが分かってるのに、軍隊や核を持つ必要があるのかと改めて感じます。とにかく、池田さんの原爆が投下された理由、投下されたその後の話、そして物質やエネルギーのお話はとても自分にとって分かりやすかったです。そして、僕の将来の夢は国会議員か国連の職員ですが、自分が被爆三世であることを確信し、常に平和であり続けることを前提にして、自分の夢をかなえていきたいと思っております。特に、おかげさまでありがとうございました。

6年 / 組 名前 三宅 将太郎

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

私は原爆の被害についてくわしく、例えば、川の水が熱湯になってしまったり、人の皮膚がさかすかただけでむけてしまったり、ゆでタコになっていたという話を聞いたとき、原爆がどなたけおそろしく、おこたらしいものかというのを改めて感じました。

そしてこの日本がゆいつの被爆国だということを知り、私たちが世界の人々に原爆のおそろしさ、おこさを広めていかなくてはいけないと思いました。

そして、核実験をせず、原爆、そのほかにも、人を殺すような兵器をなくす、まして、そのようなものがいない世界にしていかななくてはいけないと思いました。

話はかわりますが私は身近に戦争体験者、ひいおばあちゃんがいいます。

池田さんのお父さんが、きりきりまで、戦争のお話をなさらなかつたし聞き、ひいおばあちゃんのことかうかひました。私はひいおばあちゃんによく、おかしなことをたずねるので、きまつて、どう遊んだとか、こういうものを食っていたとかで、戦争の話は、さし聞いたことがありません。

きっとひいおばあちゃんも、戦争のつらくい記憶を思い出したくないのでしょう。

私は、戦争体験者が、心に深い傷をおいているのを知り、二度と深く悲しみを人の心に刻みつける戦争は二度とひきおこしてはいけないと思いました。

池田さんも原爆のせいで体が弱いということがあるのに、つらいことをお話ししてくださつてありがとうございます。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

私は、原爆のお話を何回か読んだり見たりしたことがありました。また、実際に今年のスピーチ大会でも折り鶴の少女という原爆によって被害を受けた少女の本を読み、スピーチをしました。でも実際に原爆被害者の子孫の方のお話を聞いたのは、初めてでした。

まず私が思った事は、「ひどい」。何で、同じ人間で実験を行なったのか、また、なぜこれほどの力のある物を他人に使わずに、爆弾として使ったのか...とても悲しい事だと思いはした。池田さんのお父様の体験したお話の中で「原爆投下後の町の様子。人間が人間ではなくなっていたという所で私は、もし自分の手や足の皮がはがれおちそうになっていたら、どんなにいたくて苦しいか、また、もし自分がその人達を助ける立場だったら、助けたくてもどんどん苦しみなから死んでいく人達を見てこわくてたまらないと思います。

次に私が思った事は「地獄」。多分地獄のように熱くて、さきまなきうらみにつつまれてしまうと思うととてもこわいです。

私は、ゆいいつの被爆国として、原子爆弾のもたらした被害をいろんな人々に知ってもらい、二度とこのような悲しい爆弾を作らほしくないと思いはした。

また、この世界が平和になってほしいと改めて思いました。

お話を聞いてよかったです。とても分かりやすかったので、これからも、いろんな人にお話して行ってください。ありがとうございます。ありがとうございました。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

1945年8月6日に何が来たのかまだ知らないことが
たくさんあったけれどお話を聞いてたくさんのこと
を知る事ができました。

僕は3年前に広島の大原爆ドームと平和資料館に行
きました。原爆ドームを見たとき原爆の悲惨さを
知る事はできませんでした。しかし平和記念公園
を回り資料館の中に入って人間の皮膚がはがれ
ている絵やこげた弁当の中身など原爆がもた
らした悲劇を見て啞然としてお突っ立ってい
ました。

今回お話を聞いて改めて戦争(原爆)の悲惨
な姿を頭の中に思い浮かべました。

曇一つなかった快晴の日に人々が悲惨な姿に
会ってしまい5日にはポツダム宣言を受け入れて戦争
が終ってはいけい今日までその悲劇が残っている
ことが後世の人々に戦争をしないようにと語り
かけているように思えてなりません。

この話を家族に聞かせて日本だけでなく外国の
人たちにも知ってもらいたいと思います。

僕はこの原爆や戦争が悲劇を忘れることなく
あとの人生を過ごしていきたいし自分の知って
いることだけでも伝えていきたいと思っています。

6年 | 組 名前 安藤 航

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

ぼくは池田さんの話を聞いて、原爆とは想像もつかないほどおそろしいものだなと思いました。原爆が広島に投下され、約20万人の人が亡くなり、さらには生き残った人やその子孫にまで後遺症を残す最悪の兵器だと分かりました。原爆が爆発したとき、人間1000万℃、地上は3000℃に達し、鉄をとかす温度が1200℃、その2倍以上もの熱さにおそわれたとはこわいと思いました。防火用水の中で亡くなっていたとは、それほど熱くて苦しかったのだなと感じました。もうこんな悲劇がくり返さないためには、まず核兵器をなくし、戦争をやめなければいけないと思います。そのためには、世界中の人たちに、戦争はや、てはいけないことであ、て、おそろしいものだと知、てもらわなければいけません。日本は世界中のなかで、ゆい、いつ原爆が投下され、ひ、害を受けた国なので、世界の人たちに原爆を使、ても何も良いことはない、て、ゆ、が、てほしいです。そのために池田さんのような原爆のおそろしさがつか、り、ていて、そのことを語、てく、ゆる人が必要だ、な、て思、いました。はやく戦争や兵器のない平和な日があ、てほしいです。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

私は、こちらが焼けただれた人など、道路が通れなくなるといふこと、被爆した人が24万人もいたといふことを聞いてとてもおどろきました。とてもたくさんの方が被害にあつたのだと思ひました。それに原爆の温度や大きさなどは知らなかつたので、瞬間温度が1000万℃にもなるといふことを聞いた時、とてもおどろきました。

橋をこえた時には「人間みたいだ」といふ言葉でしか表す事ができなかつた黒くこげたまつてゐる人達もたくさんいたといふことを聞いただけでもとてもこわいなと思ひました。あと、一番おどろいた事は、たった800gしかない原爆の中に1兆の1兆倍のエネルギーが入つてゐるといふ事です。1兆の1兆倍といふのは、とてもすごい数なので、これ一つが落とされただけでとてもたくさんの方が被害にあつてしまつたからとてもこわいなと思ひました。

私は、広島や長崎に落とされた原爆の名前を全く知りませんでした。原爆の中には、4セにもなるものがあると知つた時には、とてもおどろきました。それに、この原爆は、1瞬にして12万人の方が亡くなつてしまふほど、とてもこわいなものだといふ事や、いろいろな事が勉強になりました。ありがとうございました。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

。ぼくは池田さんのお話をうかがって広島原爆の被害の大き
さを、そしていかりを実感しました。ぼくが「お話をうかが
た中で一番印象に残ったことは、池田さんが「池田さんの父と
広島原爆資料館に行った時池田さんの父が言った「きれいすぎる」と言
う言葉です。ぼくは広島原爆資料館へ行ったことはありませんが、
その写真を見たことはありません。ぼくはその写真を見たとき、思わ
ず「きれいすぎる」といってなみたが落ちてしまうような写真ばかり
でした。でも、実際に現場を見た池田さんの父が「それを見て
「きれいすぎる」と言ったと言うことは、池田さんの父はその写真以上
に、ものすごい美しい光景を見たのだと思います。
ぼくは人が「死んでいない姿で死んでいる光景を見たことはありません
だ。だからぼくは、原爆の5%も理解していないと思いま
す。でも、ぼくが話を聞き、一つ分かったことが「おぼく
それは命はとて惜しいものだ」と言うことです。原爆で
は、ほんの数秒、数秒で何十万人の命で、無差別に
うばわれました。そのことを思うと、いま、ぼくの友達
家族、大きくいえば人間が「生きている」と言うことが「きせきだ
と、思いますが、今日も地球のどこかで人の命が「無差
別にうばわれています。だから、ぼくたちは、生きて
いると言うことを父、母、祖父、祖母に感謝しなければ
いけないと思います。池田さんにこの話をしをしていただ
いたことにとっても感謝しています。ありがとうございました。

6年 / 組 名前 美濃和 陸

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

話をしてくれてありがとうございます。

ぼくはいままで広島に投下されたリトルボーイについて何回も調べたことがあります。普段調べる時にはアメリカの投下した側になって考えていました。

アメリカの主張では原子爆弾を投下したから、戦争は終わったと書いていますが、ぼくはその考えは正しい判断ではないと思います。いくら日本が神風特別攻撃隊を作り使っている、それでぎせいにあった人より、広島と長崎に原爆をおとし、ぎせいにあった人の罪も火の方が圧倒的に多いからです。ぼくが今回池田さんの話を聞いて、日本側からみた原爆はおそろしいと思いました。わずか80kgのウランで広島をいっしょにして破壊した原爆は二度とこの世界で、つがってはいけなくてあらためて、教えられた感じがします。

ぼくがあの話を聞いて、あの美しい空、そして川の百七体の山、町が一面灰色で埋めつくされている状態を想像できます。この一発の原爆で広島の人のおよそ半分の二がりが、または生き絶えた。このおそろしさ、またこのむがい、そして傷つけた日本人の心、これはとりかえしのつかないことです。

ぼくは今回池田さんの話を聞いて核を使うことが二度とないことを願い協力していきたいと思っています。

6年 | 組 名前 櫻井 達都

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

ぼくは数秒にしてせくな、た人や無残
に死をとげた人がとてもいることは知って
いましたが、70%の人が被害をうけて、約
30%の人が死んでしまうのは知りません
でした。それはとてもむごいことだと思いま
白と黒の世界にしてしまう原爆は恐ろしい
兵器だと思えます。たったのゴルフボール
ほどの大きさのウランの瞬間温度が1000万
°Cという想像もできない温度になるそれが
原爆というのは信じられない事実です。それ
にトラックが早かったり、ドラム缶が近くなけ
れば死んでしまったけれど偶然が重なった
ことにより生きているのは幸運だと思えます。
一秒前までは生きていた人間が一秒後には
もはや人間の姿ではなくなっているまたは形
も姿もなくなっている状態になってしまう。そんな
人間の作りだした兵器すなわち原爆を
一日でもはやくなくせるにようにして
いく活動をこれからも続けていき、なく
せるような努力をぼくも応援してい
きます。

6年 | 組名前 野村拓郎

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

私は、原爆が800gの玉だとは知りませんでした。今までは、もと重さがあると思、ていました。なのに、たったの800gの玉だけで、いっしょんにして広島が後がたもなく、建物や人間さえもやけどしたと思うと、とても悲しいだと思、います。

生きたいと思、ている人たちも死んでしまい、生死を懸、けず死んでしまうので、私はとてもざん、げだと思、います。

もし、ちかう県に家族がいたら、残された家族は死んだとは知らず、広島のことを知たら絶、望だけが残ると思、います。

私は今まで命なんがどうでもいいと思、ていました。

けれど、原爆の話もあらためてくわしく聞くと、とてもゾッとし、命がとっても大切なことがよくわかりました。

原爆で亡くなった人たちは、生きたいのに生きられなかったのに、

今の自分たちは死んでもかまわないなど自分の命の懸、けを簡単におこな、ているので原爆で亡くなった人にと、とても失礼だと思、いました。

そして、原爆の原因は戦争なので

もう二度と戦争をしないようにしたいです。そのことを

池田さんに教えられました。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

池田真徳さんのお話をうかがって、広島に原爆が落とされた
前後の様子がとても良く分かりました。その言葉を私は、池田
さんには言えません。私は、池田さんのお父様が広島で体
験した時の本当のつらさや悲しみを分かっているようで、
分かっていないからです。

池田さんがおっしゃった人でないような人。その一言は
私の心にグッと伝いました。そんな場面でも無我夢中
になって「あの人たちを救わなければ。それが我が兵士として
はたさなくては行けない任務だ。」そう思えたお父様は
とても立派な方だと思います。

その他にも、えっとおどろいてしまう話、おもわず目を
つぶってしまいそうになるような面白い話などが多く
ありました。

ですが、私はその原爆を実際には体験していません。
なので、私たちが原爆の本当の恐ろしさを知ろう、それは
叶える事が出来ない夢です。それでも、原爆を実際に
体験されたお父様のような方はまだおられます。原爆
の本当の恐ろしさは分からなくても、それに近づく事はい
くらでも出来ます。

「池田さんからうかがったお話を今後の生活に活か
していきます。本当にありがとうございました。」

6年 2組 名前 高梨 通瑠

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

私は、五年生の夏に、原爆資料館へ行った。
その時に私も、手をななめ前に出し、幼子をかかえた女の人を見た。その時、「いやだ。こんな被害に会いたくない」と思った分、池田さんのお父さんのまわりに、きれいなまらると言った人がいた。「きれいなまらてだめだ。」言ったのは、おほあちゃんだ。おほあちゃんも、3才くらいに原爆を体験し、そのときの思いは、脳にほりついてとれない。悪い。と言っていた。そして、あんな思いは「いやだ」と言いつづけても仕方がない。このことを、他の国に伝えて、核の使用が危なく、決して平和ではない今を、変えなくてほ」と言っていた。私は、その話を聞いて、おほあちゃんも、私に被害三世として、おほあちゃんのことを心に刻み、他の人に伝えてほしい。のではないのか？ そのまらに私は思った。しかし、私は、おほあちゃんのことを世界にまで、つなげて行くことが出来るのか？と心配した。つらか、た思いをおほあちゃんのためにも、世界中の人のためにも、伝えたい。だから、今回池田さんが、東調布第一小学校にお話をしに来てくれたことが、とてもうれしかった。そして、私は、池田さんのまらに、

6年2組 名前 宮田里菜

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

たくさん小学校や人におはあちゃんと思
いを伝えたいと思った。また今回の話で生き
ていられるというのには、すごいことだと思っ
た。池田さんのお父さんが、女の人を助けた
ときのあたたかさが忘れられないと言っ
て、私は、うちの毎日をふりかえって見た。
友だちとけんかをした時に、うかがいに来て
友だちに「死ぬ」と言ってしまった。しか
し、友だちだって生きていられるんだから「死ぬ」
なんて言ったらいけない。そんなのを軽かしく言
えるようになった言葉では、いいことを改めて
実感した。大人になってどんな人になっ
ているかは、分かるけれど、命を私だけに
ある子だけの行動は絶対にしない。立派な
大人になりたいと思っ

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

国語の授業で、戦争などについてのスロータをやリ、私は
広島原爆についてスロータしました。その際、いろいろと
調べて、広島原爆のことについて、分かったつもりでいま
した。しかし、お話をうかがうと、私の調べたことと比べものに
ならないほど、おそろしく、悲散なものでした。分かっていると思
いこんでいた私がおそろしいです。

やはり、実際に被爆した広島を目の前にされた方の話は、
深く聞き入ることができました。爆弾が爆発した時の
音、光、震動、被爆者の無残な姿など、実際に見られた方
にしか来ぬ言葉が記されており、その言葉は、今も私の心
の中で響いています。特に最後の原爆ドームの人形を見た時
の「きれいすぎる」という言葉は、忘れたくても忘れられない
でしょう。

私の身の回りには被爆者の方はいません。しかし、もしいれは
この事実をもっと早くに知ったかもしれないと残念に思
いました。二年前まで関西に住んでいたことが、その思いを強く
します。もっと早く知って、少しでも多くの人にこの話を伝えた
らた、と思います。私はこれから原爆のおそろしさを知らな
い人に、伝えていきたいと思ひます。一瞬間にして何十万人もの
人が命を絶たれたこと、今も原爆病と戦つていふ人がた
くさんいるということ。

最後に、どうして原子爆弾が爆発するのかという原理。
核の分れつが連させて、とてつむいエネルギーに変わり、

6年 2組 名前 小田 奈緒

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

広島にあれほどの被害をもたらすまでには、ということか、
とてもおどろきです。そのようなおそろしい物が、この世界に
あると考えるだけでゾッとします。一刻も早く、なくしてほしい
と願うばかりです。

池田さんの願い通り、私はこの話を知らぬ人に伝えて
いこうと思います。日本に唯一落とされた原爆のことを、
ただの歴史にしてしまわないように。

この貴重な時間を、本当にありがとうございました。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

私は、このお話を聞いて、核のおそろしさと、人口の
きょうふ、を身近なものとして感じました。それはも
う、想像を絶する世界で、聞きながら、身がふるい
てしまったほどでした。たまたま 800g の、ゴルフボール
ほどの大きさのウランが、大きくて広く、活気にあふれた
広島を、一瞬間にして消してしまったことを、今で
も信じる事ができません。

私達は、国語で「平和のとりでを築く」という学習
をしました。その内容は、原爆ドームが世界遺産に指定
されるまでの話なのですが、原爆ドーム遺産反対説
の中に、原爆ドームを見ていると原爆がもたらしたむご
たらしいありさまを思ったので、一刻も早くとりこわして
ほしい」という意見がありました。しかし私は、原爆が
もたらしたことに背をむけるのではなく、それを伝え、
このことについて一人一人が考えていくことが大切だ
というふうに思っています。これは池田さんのお話を
聞き、生まれた考えでもあります。

そのために、私は機会があれば、このことをいろいろ
な周りの人に伝え、それを考えてもらいたいと思います。
そして、私が最も印象に残っているのが、原爆資料
館で父の言った「きれいすぎる」という言葉で
す。その言葉で、今まで私が考えていた世界がくつがえ
されました。本当は、どんなに感じたか、想像する

6年 2組 名前 相澤 咲月

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

だけで鳥肌がたちます。

原爆をおとされた、唯一の国、日本。核のおそろしさを他のどの国よりも知っているからこそ、世界でもう、二度と同じ悲劇をくり返してはいけないということも、世界に知らせる義務があると思います。そして非核三原則を広めていって核のない世界にすること。これが未来をにらみ、私達の課題です。

最後になりましたが広島を実際に見て、

町をきれいにして下さったお父さん、

それをおくさず、伝え、良い機会をもうけて下さった

しんとくさん、本当に、本当にどうもありがとう

ございました。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

私は池田さんに広島原爆投下の九日間と核の利用を聞いてとても胸が痛くなりました。原爆によって多くの人々がいっしょになくなったり全身に大やけどをおたりましたので、原爆は「とてもおそろしいものだ」と改めて感じました。人々のひふが赤くなり黒くげになつたひふがはがれ人間ではない姿を想像すると、血の気が引いたように、ものすごくゾッとしました。しく熱じごくの広島にも自分がいと思うと、とても考えられません。原爆が投下された後の何の色もない灰色のがれきだけの世界を考えただけでとても苦しく感じました。池田のお父さんは、実際にその場所で遺体を焼却されていたと聞いて、私にはとてもできない事だと思ひまたひふがはがれて液のようなものが出ている遺体をついで、山づみにして焼却していた池田さんのお父さんは、どんな気持ちで仕事をしていたのだらうかと思いました。死体にうじ虫がうじ。うじ。といたり、生きている人の傷口にうじ虫がいたりしたと想像すると、すごくこわく思ひました。池田さんのお父さんが原爆で大やけどをおた女性
の模型を見て言、た「守れいすぎる」という言葉を聞いて、本当にひがいあつた人は、もとひどい姿だ、と改めて感じました。

池田さんのお話は一生忘れません。だから私も池田さんのように多くの人に原爆のことを伝えていきたいと思ひます。貴重なお話をしていただき本当にありがとうございました。これから多くの人に原爆のことを伝えていってください。私たちに話してくれたことがいつか世界中に広まっていければとてもうれしいです。

長い時間いろいろなお話をしてくださりありがとうございました。感謝!!

6年 2組 名前 加藤 舞

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

ぼくは広島原爆の話をきいてとてもおくなりました。

学校のインターネットで調べたときの動画よりくわしく話がリアル

でした。とくに池田さんのお父さんが原爆の記念館の中の被曝者

の模形をみて「きれいすぎる」と言ったことがずっと心に残って

います。さらに広島全体住民のうち死を占める30%におよぶというのにもおどろ

きです。今の時代にも自分の地域に原爆がおとされたらと思うと

ぞっとします。ぼくは原爆はせうたいに持てはいけないと思います。

その一つの原爆でたくさん人の命がうばわれ、たくさん人が悲しむからで

す。あと原爆のリトルボーイにふくまれたねんりょうの少なさはたった800gの

ねんりょうでここまで被害をもたらすとはおどろきです。

原爆のいやくにもおどろきです。約1000万と書いてピンとこなかった

けど、鉛をもとかし、川の水も蒸発させてしまうときいて、おどろきました。

人も生きてるか死んでるかわからないうちに人間に覚えのないものがはがれて

いる。耳が見えず、目が大きくみえるとか傷口に虫がわいているなど

を聞いて、そのときの広島を想像するだけで、かなりこわいです。

このような被害をもたらす核兵器や戦争など人の命をうばい、

悲しめるようなことはしてほしくないし、してはいけないと思います。

また全ての生きものが自然に遊びくらせるようになってほしいです。

そのために人間と人間がながりたすけあい、世界が平和になん

ほしいし、それから先ずと平和で悲しみのない未来にしたい

です。なってほしいと思いました。

6年 2組 名前 皆川 裕哉

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

今回は寒い中、どうもありがとうございました。
被爆者の姿の話をされているとき、私は
ぞっとしました。そのときの情景が目につかんだ
からです。私だったらその姿を見た瞬間逃げしまい
そうです。そのような所で九日間もすごした池田
さんは本当にすごいと思います。

また原爆の被害のすごさとおそろしさをとてもよく
分かりやすく説明していただいたおかげでとてもよく
理解することができました。

「瞬間温度だけでも1,000度ある」と聞いたとき
には、熱さというものが想像できませんでした。
いつもお風呂の温度は40度前後で、その何十倍
にもなる温度ですから、一瞬のうちにとにかくの方が
亡くなるか考えるだけでぞっとしました。実際は
約二万人。この数にはとてもおどろきました。

それも燃焼したウランの量は水の800年というほど
原爆(核)はとてもおそろしい。そのおそろしいものは、
絶対使用してほしくないと思います。

まだ核分裂のことは私には難しく、よく分からなかつた
のですが、おそろしいということだけは分かりまし
た。また遺伝にも影響するなんてこわいな。と
思いました。私は今はまだよく分からないことも
多かったです。少し残酷で、知りたくないと思うことも

6年2組 名前 平澤 侑子

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

あると思います。だけれど、今、私たちが平和で楽しく
幸せに生活するのはきっと戦争はいけ無い。やめなければい
と思ったり、言ってる人がいるからだと思います。しかし
まだ日本だけでなくほかの国々にも「不幸せだ」と思っ
ている人は大勢いると思います。その人にも「幸せだ」と
思える日が来るといいなと思います。

また、池田さんが教えてくださったことは私は決して
忘れないし、弟や友達、私たちの後の社会の引い
ていってくださる人々に伝えていけばいいな、
と思っっています。

本当にありがとうございました。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」 「核の利用」)

私は、いけださんとくさんのお話を聞いてとてもおそろしく
感じました。広島と長崎の原爆のことについて調べた
ことはあるけど、そこまで詳しく調べたことがないのでいけださん
の話聞いたときとてびっくりしました。

また、焼けにげた人を助けようとして手をつかんで、あぶかばか
でして助けがつかぬと聞いたとき、とりはたかまりました。

そんなにもいいものだ、たのめと改めて感じました。

焼けにげた人は、手を楫にして、ぶつうの人のように歩くと、
わきが、あかむらめ手をはなれ前にして歩くというのにも
おどろきました。

灰色の世界が続いた状態... というのは私には
想像ができませんでした。どけと鉄の骨ぐり、どけが
残った状態... これは想像ができました。思いうかばず、どけで
あ、どけいいわ、様だと思ったり。

中には幼児をどけがつかえ、全身が焼け、どけ、歯はどけの
ように、目は大きく見開いたどけ、あはれている人、いと聞いて、
とてひどい人だ、なと思ったり。

家の中で死んでいる人、どけ、どけ、どけ、どけ、どけ、どけ、
かわいそうに思ったり。

かソリニをかけた遺体を焼くというのとてびっくりしました。

生物の毒はどけ、どけ、どけ、どけ、どけ、どけ、どけ、どけ、どけ、
不思議に思いました。

つじ虫と聞いて、とて気持ち悪かったです。

私は、いけださんの話を聞いたとき、生きています、何だ、どう

6年 3組 名前 川村 美佳

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

と思いましたが。そして生きるための大切さを学びました。

また旧跡に人々に学べる機会を、嬉しく思いました。

本当に感謝しています。ありがとうございました。

6年 2組 名前 山村美穂

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

私は池田貞徳さんのお話をきいて、想像
していたよりずっと生々しく恐怖を感じました。
池田さんのお父さんが生き残ったのは、
トラックの到着がおくれ、そのためにドラム
缶にもたれていたからと聞かれ、とても
運が良かった。たんだと安心すると同時に、
もしトラックが予定通り到着していれば…
もしドラム缶がなか、たら…ということをも
想像して、とてもぞっとしました。

爆心地に向かう時、全身が真っ赤に
なった人が助けを求めてくる場面では、
人々がみんな手をななめ前方にたらし、
よろよろと歩いていた、と聞いて、
私はゾビを連想しました。しかし、
実際はホラー映画よりずっと怖ろし
いものだ、たのだと思います。

また、原爆は被爆者だけでなく、その
子孫にも影響をおよぼすようで、
池田さん自身も幼いころから骨が弱く、
今では歯がボロボロ、全て入れ歯で、
血液の比重が軽く、けん血もできなくて
原因不明の難病にもかかっていると知り
ました。私はよくテレビなどの

6年 2組 名前 坂田 柚子香

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

ニュースで、原爆ほうという単語も
耳にするけれど、被爆から何十年
以上たった今でも被害を受けている
人がいるという事を実感し、原爆は
これからの未来もだいいなしにしてしまう
ものだと思ひ、原爆の影響の強さい
おどろきました。それから、今までは
原爆のニュースも特によく見るなんて
ことはなかつたけれど、これからは
注意深く見ようと思ひます。

また、お父さんが被爆から初めて
広島を訪ね、資料館へ行つた時の
言葉「きれいすぎる」は、とても重く、
印象深かったです。

私はお話を聞き終わつた時なんに
かほ、としました。聞きいゝるときは、
今と比べ、想像して、恐怖を感じ、
きんちようしてました。

池田真徳さんのお話をきけて、とても
良い勉強になりました。私も、
この話を伝えていきたいと思ひます。

6年 2組 名前 坂田柚子香

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

池田さんのお話をうかがって私は、よくテレビなどで見たりするけど、お話をうかがってテレビでもひさなのにもそれ以上というところが聞いていて伝わってきました。池田さんのお父さんはその現場を17歳で見られたというのはつらかったらうなと思いました。私がもし池田さんのお父さんだったら、すごくすごく、という言葉では物足りないくらいつらくて苦しい思いだったと思います。日本が一番最初に原爆が落されたと聞いてつらかったです。お話の中で、皮ふがおりおちるや、手をななめ前方にさしだしていたなどと聞いて、とりはだかを立て、ゾッとしました。原爆の後の病気など体の異変などにきずいたときは、どんな感情だったのかも知りたかったです。そして、お父様が原爆資料館へ行かれたとき、人形を見て、「きずいすぎる」と言たと聞いて大変おどろきました。

国語の授業で原爆ドームのことをやったんですが、あまりピンときませんでしたが、しかしお話を聞いたとき、教科書を読んでいるときより興味をもてました。教科書では、原爆ドームのことでしたが、ドームよりもっとそのときのひさんさや、そのときの人々の様子を伝え、原爆のおそろしさをたくさんの人に伝えていった方がいいと思います。原爆などは、二度と落してはいけないと思うし、この世にあってはならないと思います。

お話を聞いた中で、足をけがしていた女の人のおきず口にたかっていたうじ足を根気よく取っていたというのにはおどろきました。しかも、ピンセットもないのに、けんどとっていたというのに感心しました。私は、池田さんのお父さんを尊敬しています。

6年 2組 名前 三浦 麻由

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

広島原子爆弾のことについては早く強し、
調べてまとめたけど、自分がおも、ていることより
もはるかにちがって、いというのを今まで以上はあ
ました。「ケがそれ人の奇をもどうしたら、ぶぶがとれた
赤いとこがみえた」ところ、その池田よしろうさんもこ
わかったらうし、被害にあつた人もそのようになつたこと、
体中がいたが、たとひもう。やんぼうしたときもそうた、た
けどこの話をきいてあらためて、こといおとみも、たし、なんで「ん
なあらせいとなつてしまつたのか」、なにがあつたのか、など、こ
んなこと、考えさせられました。

私が一番「い」なとみも、たの「う」虫、
死体がうじ虫を、い、ほ、いになつて、いた、生きた人間の傷口
にもうじ虫がしんはくして、いたこと、なんで、目だけが原爆を
おとされたのか、いも人にみも、い、す。

そして信じられないなとみも、たの、死、率、が、30%で
広島にいる3人に1人が死ぬといふこと、なぜ「広島と長崎
におとされたのか、→広島には、国、の、た、て、も、の、か、
た、た、め、長崎もそうた、た、め、た、いた、か、第、三、ト、
2回目にもうとみも、た、こ、ろ、か、
2回目におちた、

この理由では「た、人、を、お、と、す、た、な、ん、て、い、い、で、す、話、し、合、て
広島にも米国のたてものをたてももらえは、か、た、た、
の、た、それ、た、
国民をこころ、な、ん、て、す、

6年 2組 名前 浦松 彩夏

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

ことについてです。

いけがよしぞうさんもつらかったとおもいます。そして広島にすんでいた。
みんなのつみもない人々が犠牲になったこの戦争。みんなことが
二度とおこらないうでほしいです。池田さんとくさ人もそうおぼえて
いるとおもいます。この広島のことについて今自分がどれたけ幸せ
で平和に生きてこれているのが実感は浅い。お話をしてくだ
さってありがとうございます。

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

私は前、国語で原爆トームのこと、絵で戦争のことについてお話を聞きました。その時、お話を聞いて戦争のおそろいさを感じました。お話をうかがって戦争というのは、言葉で表すのはおそろいさを感じました。

遺体を運んだり、消火活動(水)に力を入れたり、おそろいさを感じました。私が一番聞いていて印象に残っているのは、

何日も遺体を運んでいるうちに、おそろいさを感じなくなりました。というところ、広島へ行って、おそろいさの模型を見て、おそろいさを感じました。

私は広島原爆トームを見たことがあります。今は補強もされてきれいですが、当時はおそろいさを感じました。戦争は、人の心まで変えてしまうものか、と感じました。

今、日本では戦争はおそろいさを感じませんが、世界ではまだおそろいさを感じます。おそろいさの戦争が、今世界でおそろいさを感じると、おそろいさを感じません。おそろいさの戦争が、おそろいさの世界から戦争というものがなくなることをおそろいさを感じます。私は戦争と言うことを体験してはいないけれど、このお話を次の人に伝えられたりできることがあれば役に立ちたいと感じました。

お話を聞かせて下さりありがとうございます。

とてもいい体験になりました。おそろいさからも伝え売けて下さい。この話を聞いたことに感謝します。

6年 2組 名前 森田 聖奈

お話を
うかがって... (「広島原爆投下の九日間」「核の利用」)

ぼくは池田さんの話を聞いて、原爆を体験していないのに、その時のじょうけい(様子)が頭に思いがひきました。

ぼくが話を聞いて、びっくりしたことは広島が「がれき」だけの灰色の世界だったことです。また、原爆のエネルギーが 10^{24} もの力で、燃料が800gだけというにもおどろきました。

また、原爆の中心温度が100万℃のことや、しんかん(閃光)温度が1000万℃ということもびっくりしたことです。

池田さんの話を聞く前も、原爆はおそろい(怖い)と聞いては来ましたが、池田さんの話を聞いた後、がすごく原爆がもっとおそろい(怖い)と思いました。また、8月8日からの遺体の焼却(焼く)の話を知るときは、体がふるえるほどのおそろし(怖い)でした。

広島に、池田さんが行ったときのお父さんの「きれいすぎる」という言葉は、胸にいつまでも残る言葉だと思います。

池田さんの話を聞いて、広島原爆ドームや原爆に関する資料館などに一度行ってみたいと思いました。そして、一番おどろいた(びっくりした)ことは、

24万人もの人が原爆の力で亡くなったこと、12万人の中の2万人が「いっしょ」にして、世に消えていくことです。

原爆のおそろしさを改めて感じました。また「核」が、世界からなくなることが願っていたと思います。

すごい、いい体験になりました。ありがとうございました。

この活動をどんどん子どもたちに伝え続けて、

ください。また日本、世界へと伝え続けてほしいです。

6年 2組 名前 森澤 元